



2026年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年2月13日

上場会社名 株式会社メディネット 上場取引所 東
コード番号 2370 URL <https://www.medinet-inc.co.jp>
代表者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 久布白 兼直
問合せ先責任者 （役職名） 取締役経営管理部長 （氏名） 落合 雅三 TEL 03-6631-1201
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年9月期第1四半期の業績（2025年10月1日～2025年12月31日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年9月期第1四半期	181	△11.4	△371	—	△338	—	△339	—
2025年9月期第1四半期	204	△17.7	△382	—	△351	—	△345	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期第1四半期	△1.28	—
2025年9月期第1四半期	△1.31	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年9月期第1四半期	3,954	3,428	86.4
2025年9月期	4,254	3,777	88.8

（参考）自己資本 2026年9月期第1四半期 3,415百万円 2025年9月期 3,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—				
2026年9月期（予想）		0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年9月期の業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	943	16.4	△1,454	—	△1,449	—	△1,453	—	△5.49

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期1Q	264,729,298株	2025年9月期	264,729,198株
② 期末自己株式数	2026年9月期1Q	64株	2025年9月期	64株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年9月期1Q	264,729,143株	2025年9月期1Q	264,515,242株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】P.3「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況.....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況.....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(収益認識関係の注記)	8
(重要な後発事象の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期累計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）においては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により景気は緩やかな回復基調にあるものの、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクの高まりや、物価上昇の継続等を背景に、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社は、事業の中核である医療機関向け特定細胞加工物の製造に加え、企業等に向けたCDMO事業の展開や再生医療等製品の開発の加速など、新たなビジネス領域の拡大を通じ、早期の収益構造の改善に取り組んでおります。しかしながら、当社を取り巻く事業環境は引き続き厳しい状況にあります。

こうした中、当社は引き続き、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」及び「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく法的枠組みの下、新たなビジネス展開による事業拡大に向けた取り組みを進めるとともに、特定細胞加工物の受託拡大やCDMO事業の基盤強化を通じて、収益構造の改善に注力しております。

この結果、当第1四半期累計期間における経営成績は以下のとおりとなりました。

(金額単位：百万円)

	売上高	営業損失 (△)	経常損失 (△)	四半期純損失 (△)	1株当たり 四半期純損失 (△)
当第1四半期 累計期間	181	△371	△338	△339	△1.28円
前第1四半期 累計期間	204	△382	△351	△345	△1.31円
増減率 (%)	△11.4	—	—	—	—

当第1四半期累計期間においては、「特定細胞加工物製造業」では、株式会社資生堂より技術提供を受けたS-DSC®に係る細胞加工件数が前年を上回ったものの、免疫細胞の細胞加工件数が一部の取引先医療機関における国内患者数の減少及び日本への渡航規制が実施されていた国からの海外患者の低減により減少しました。一方で、「CDMO事業」ではヤンセンファーマ株式会社からの製造受託が継続したことに加え、「バリューチェーン事業」において医療機器販売が発生しました。以上の結果、売上高は181百万円（前年同期比11.4%減）となりました。損益面につきましては、売上原価低減の取組みにより、売上原価は減少したものの、売上高の減少に伴い売上総利益は減少し、22百万円（前年同期比11.0%減）、研究開発費及び販売費の減少等により販売費及び一般管理費は393百万円（前年同期比3.4%減）となり、営業損失は371百万円（前年同期は営業損失382百万円）となりました。また、投資事業組合運用益28百万円（前年同期比19.8%増）等の営業外損益により、経常損失は338百万円（前年同期は経常損失351百万円）、四半期純損失は339百万円（前年同期は四半期純損失345百万円）となりました。

報告セグメント別の経営成績の概況は、以下のとおりであります。

(金額単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額 (注) 2	
	細胞加工業		再生医療等製品事業				
	売上高	セグメント 損失 (△)	売上高	セグメント 損失 (△)	セグメント 損失 (△)	売上高	セグメント 損失 (△)
当第1 四半期 累計期間	181	△126	0	△94	△150	181	△371
前第1 四半期 累計期間	204	△118	0	△107	△155	204	△382

(注) 1. セグメント損失 (△) の調整額は、全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失 (△) は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

① 細胞加工業

細胞加工業については、細胞加工業の3つのビジネス領域（「特定細胞加工物製造業」・「CDMO事業」・「バリューチェーン事業」）の拡大に向けて積極的な活動を展開しております。当第1四半期累計期間においては、「特定細胞加工物製造業」では、株式会社資生堂より技術提供を受けたS-DSC®に係る細胞加工件数が前年を上回った一方、一部の取引先医療機関における国内患者数が減少したことに加え、日本への渡航規制が実施された国からの海外患者の低減により免疫細胞の細胞加工件数が減少した結果、売上高は133百万円（前年同期比17.9%減）となりました。「CDMO事業」では従来のヤンセンファーマ株式会社からの製造受託が計画どおりに継続しましたが、一部の受託案件において収益計上時期が第2四半期以降となったことにより、売上高は27百万円（前年

同期比2.7%増)、「バリューチェーン事業」では、施設運営管理料売上が減少したものの、医療機器販売が発生したこと等により、売上高が20百万円(前年同期比35.1%増)となった結果、売上高は181百万円(前年同期比11.3%減)となりました。売上原価につきましては、細部加工施設において一部の費用配賦方法の見直しを行う等、売上原価低減の取組みにより減少しましたが、売上減少に伴う売上総利益の減少や新規骨再生細胞加工技術の開発費の増加、細胞加工受託の体制整備に係る費用の増加等より、セグメント損失は126百万円(前年同期はセグメント損失118百万円)となりました。

② 再生医療等製品事業

再生医療等製品事業については、ステムピューティクス社との間で、同社が創製し、インドで製造販売承認を取得している同種間葉系間質細胞製品「Stempeuce1®」について、日本における包括的高度慢性下肢虚血を対象とした開発・商業化に関するオプション・ライセンス契約を締結し、本製品の独占の開発・商業化権のライセンスに係るオプション権を取得しました。オプション・ライセンス契約に基づき、本製品の早期の治験開始に向け、研究開発活動を推進しております。一方、2025年9月期中の国内開発方針の決定を目指しておりましたMDNT-01(NeoCart)に関しましては、Ocugen社の開発体制が変更され、NeoCartの開発を子会社OrthoCellix社へ移管したこと等により、治験製品製造体制の準備も含め米国での追加第Ⅲ相試験の開始が遅延しております。このため、当社におきましても米国での開発状況を踏まえ、国内開発方針を2026年9月期中に決定する予定です。当第1四半期累計期間においては、売上高は0百万円(前年同期比20.5%減)、研究開発費の減少等によりセグメント損失は94百万円(前年同期はセグメント損失107百万円)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(財政状態)

	前事業年度末	当第1四半期 会計期間末	増減
資産合計(百万円)	4,254	3,954	△299
負債合計(百万円)	476	526	49
純資産合計(百万円)	3,777	3,428	△349
自己資本比率(%)	88.8	86.4	△2.4
1株当たり純資産(円)	14.27	12.90	△1.37

資産合計は、前事業年度末に比べて299百万円減少し、3,954百万円となりました。主な要因は現金及び預金318百万円の減少です。

負債合計は、前事業年度末に比べて49百万円増加し、526百万円となりました。主な要因は、賞与引当金38百万円の減少、流動負債「その他」95百万円の増加です。

純資産合計は、前事業年度末に比べて349百万円減少し、3,428百万円となりました。主な要因は、四半期純損失計上に伴う利益剰余金339百万円の減少によるものです。

以上の結果、自己資本比率は、前事業年度末の88.8%から86.4%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、2025年11月13日に公表しました業績予想から変更はございません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、がん免疫療法市場の環境変化に伴う細胞加工業の売上急減後、回復が十分でないことに加え、再生医療等製品事業分野における自社製品の開発進捗、新規開発候補品の導入評価等に伴う支出が累増しているため、継続的に営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローが発生しており、継続企業の前提に疑義を生じさせるリスクが存在しております。

しかしながら、当社は、細胞加工業セグメントにおいては、特定細胞加工物の受託拡大と新規のCDMO案件の獲得等によって売上高の回復を図るとともに、製造体制の適正化による原価の低減、販売費の効率化等を推進することにより、同セグメントのセグメント利益の黒字回復を目指しております。また、再生医療等製品事業セグメントにおいては、早期の製造販売承認の取得に向けて有望でかつ可能性の高いシーズを優先して開発を進めるとともに、再生医療等製品の開発費等については資金状況を勘案の上、機動的に資金調達を実施してまいります。現状では、2019年6月の第14回及び第15回、2020年7月の第16回、2020年9月の第17回、2021年9月の第18回並びに2023年3月の第19回新株予約権の発行による再生医療等製品開発費の資金調達等により、安定的なキャッシュポジションを維持しており、当面の資金繰りに懸念はないものと判断しております。これらに加えて、当社における当第1

四半期会計期間末の資金残高の状況を総合的に検討した結果、事業活動の継続性に疑念はなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,170,097	1,851,378
売掛金	255,760	258,911
有価証券	1,000,000	1,000,000
商品	—	12,100
仕掛品	21,521	31,316
原材料及び貯蔵品	28,228	30,149
その他	136,008	142,536
流動資産合計	3,611,617	3,326,392
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	283,465	270,651
その他（純額）	73,155	76,690
有形固定資産合計	356,621	347,341
無形固定資産	67,987	84,320
投資その他の資産		
投資有価証券	154,550	134,677
長期貸付金	459,250	458,000
その他	86,761	85,390
貸倒引当金	△482,718	△481,468
投資その他の資産合計	217,843	196,599
固定資産合計	642,452	628,260
資産合計	4,254,070	3,954,653
負債の部		
流動負債		
買掛金	41,074	40,905
未払法人税等	10,507	7,754
賞与引当金	72,176	33,979
その他	109,351	204,376
流動負債合計	233,110	287,016
固定負債		
資産除去債務	162,195	162,708
株式報酬引当金	65,646	71,268
その他	15,546	5,280
固定負債合計	243,387	239,257
負債合計	476,497	526,273
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,102,250	5,102,251
資本剰余金	3,850	3,851
利益剰余金	△1,362,138	△1,701,412
自己株式	△4	△4
株主資本合計	3,743,957	3,404,686
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	33,615	11,303
評価・換算差額等合計	33,615	11,303
新株予約権	—	12,389
純資産合計	3,777,572	3,428,380
負債純資産合計	4,254,070	3,954,653

(2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)
売上高	204,363	181,163
売上原価	178,707	158,334
売上総利益	25,655	22,828
販売費及び一般管理費	407,852	393,972
営業損失(△)	△382,196	△371,143
営業外収益		
受取利息	1,545	3,056
為替差益	—	0
貸倒引当金戻入額	1,550	1,250
投資事業組合運用益	23,643	28,323
加工中断収入	3,543	1,814
その他	1,167	1,378
営業外収益合計	31,449	35,823
営業外費用		
支払利息	3	—
為替差損	9	—
株式交付費	1,104	—
社債発行費等	—	2,901
営業外費用合計	1,117	2,901
経常損失(△)	△351,865	△338,221
特別利益		
投資有価証券売却益	7,281	—
特別利益合計	7,281	—
税引前四半期純損失(△)	△344,583	△338,221
法人税、住民税及び事業税	1,052	1,052
法人税等合計	1,052	1,052
四半期純損失(△)	△345,635	△339,274

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第1四半期累計期間(自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	細胞加工業	再生医療等 製品事業	計		
売上高					
特定細胞加工物製造業	162,961	—	162,961	—	162,961
CDMO事業	26,404	—	26,404	—	26,404
バリューチェーン事業	14,943	—	14,943	—	14,943
ライセンス収入	—	53	53	—	53
顧客との契約から生じる 収益	204,309	53	204,363	—	204,363
外部顧客への売上高	204,309	53	204,363	—	204,363
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	204,309	53	204,363	—	204,363
セグメント損失(△)	△118,847	△107,542	△226,390	△155,806	△382,196

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△155,806千円は、全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期累計期間(自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	細胞加工業	再生医療等 製品事業	計		
売上高					
特定細胞加工物製造業	133,813	—	133,813	—	133,813
CDMO事業	27,122	—	27,122	—	27,122
バリューチェーン事業	20,184	—	20,184	—	20,184
ライセンス収入	—	42	42	—	42
顧客との契約から生じる 収益	181,120	42	181,163	—	181,163
外部顧客への売上高	181,120	42	181,163	—	181,163
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	181,120	42	181,163	—	181,163
セグメント損失(△)	△126,601	△94,507	△221,108	△150,035	△371,143

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△150,035千円は、全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	24,758千円	23,618千円

(収益認識関係の注記)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「(3) 四半期財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象の注記)

(資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分)

当社は、2025年12月17日開催の第30回定時株主総会において資本金の額の減少及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分を行うことを決議し、2026年1月31日に当該決議の効力が発生しております。

1. 資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分の目的

当社は、前事業年度におきましても当期純損失を計上し、1,362,138,158円の繰越利益剰余金の欠損を計上するに至っております。つきましては、現在生じております利益剰余金欠損額を解消し、財務体質の健全化を図ることを目的として、会社法第447条第1項及び第448条第1項の規定に基づく資本金及び資本準備金の額の減少並びに会社法第452条の規定に基づく剰余金の処分を行いました。

2. 資本金及び資本準備金の額の減少の内容

(1) 減少した資本金の額

資本金の額のうち、1,358,288,102円を減少し、減少した資本金の額の全額をその他資本剰余金に振り替えました。

(2) 減少した資本準備金の額

資本準備金の額のうち、3,850,056円を減少し、減少した資本準備金の額の全額をその他資本剰余金に振り替えました。

3. 資本金及び資本準備金の額の減少の方法

払戻を行わない無償減資とし、発行済株式総数の変更は行わず、資本金及び資本準備金の額のみを減少し全額をその他資本剰余金へ振り替えました。

4. 剰余金の処分の内容

会社法第452条の規定に基づき、上記の効力が生じた後のその他資本剰余金1,362,138,158円全額を繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補に充当しました。これにより繰越利益剰余金の額は0円となりました。

(1) 減少した剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 1,362,138,158円

(2) 増加した剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 1,362,138,158円

5. その他の重要な事項

本件は、「純資産の部」における科目間の振り替えであり、当社の純資産の額の変動はなく、業績に与える影響はありません。